

特別賞

旅のテーマ 応募者名	訪問先 都道府県	時代区分	旅の概要
旧石器時代を体験する旅/ オホーツクの古代遺跡を訪ねて NPオホーツク・クラスター 湧別川流域研究部会	北海道	旧石器、縄文、 弥生、古墳、 飛鳥、奈良、 平安、鎌倉、 明治、大正、 昭和	旧石器時代から縄文時代、続縄文時代、彌文時代などを巡る旅。白滝遺跡の周辺は黒曜石の産地であり、ここで作られた石器は、日本各地や遠くシベリアからも発見され、我が国の石器時代を考える上で興味深い。
ひな街道を行く 山崎セツ子	山形県 新潟県	江戸、明治、 大正、昭和、 平成	毎年3月に開催されている「酒田雛街道」(酒田市)、「鶴岡雛物語」(鶴岡市)、「町屋の人形さま巡り」(村上市)を時期を合わせて巡る旅。様々な人形が比較でき、飽きがこず、幅広い層にお勧めできる。
分水嶺を越えて、 古い町並みジグザグ紀行 奥野直子	富山県 長野県 岐阜県	江戸、明治、 大正	中部地方の分水嶺を越えて、古い町並みを、鉄道や公共バスを乗り継いでゆっくり訪ねていく旅。奈良井宿から、妻籠・馬籠を経て、岩村を抜け、世界遺産である白川郷・五箇山の合掌造り集落を見て、高岡、伏木に至るという、流めの旅。
世界文化遺産白川郷と 日本の匠の技を訪ねる旅 志摩泰子	石川県 福井県 岐阜県 愛知県 滋賀県	奈良、平安、 室町、 戦国・安土桃山、 江戸、明治	外国人を案内することを念頭に立てられた旅。中部・北陸地方を中心に、ろうそく、山車のからくり仕掛け、合掌造り、漆器、陶器、和紙、染め物など、我が国の伝統あるものづくりを巡る。
世界遺産「熊野古道」を 海、山、川で体感する 大川勝宏	三重県 和歌山県	神話、飛鳥、 平安、江戸	世界遺産熊野古道周辺を、海、山、川から堪能する旅。 ○海の道(鬼ヶ城などの奇岩奇勝) ○山の道(丸山千枚田) ○川の道(カヌー体験による川下り)
万葉の旅 奥井康矩	京都府 奈良県 など 25都府県	神話、縄文、 飛鳥、奈良、 平安、 鎌倉、室町、 戦国・安土桃山、 江戸、明治	日本各地の万葉の歌碑を訪ねる旅。北海道・東北を除く地域をくまなく巡る旅。吉野地方をはじめ、万葉の歌にゆかりのある地方を、9つのコースに分けることで、無理なく訪れることができる。
20世紀初頭、外国人建築家が 見た日本をめぐる旅 渡辺恭伸	群馬県 東京都 など 9都府県	江戸、大正、 昭和、平成	ブルーノ・タウト、フランク・ロイド・ライトなど、20世紀に外国人建築家が我が国で設計した建物を巡るというテーマに独自性のある旅。20世紀初頭に来日した外国人が見た近代日本の姿を通じて、近代日本を考える。
キリシタンの道 島原・天草 山下留美	長崎県 熊本県	江戸、明治、 昭和、平成	天草地方のキリシタン信仰に加え、雲仙普賢岳などの自然も楽しめる欲張りな内容を、日程的にうまくまとめた旅。島原、雲仙普賢岳を経て、天草地方においてキリシタン信仰に触れる。
歴史と祭祀の源流に触れる旅 尾上博一	長崎県	縄文、弥生、 平安、室町、 戦国・安土桃山、 江戸、明治	竜ト神事や赤米神事など対馬独特の伝統と文化に触れる独自の旅。式内社などを実際に巡ることで、対馬独特の文化に触れることが魅力的であり、日本における文化の多様性に触れる。

## わたしの旅 ～日本の歴史と文化をたずねて～ 2005

我が国は長い歴史を有し、また、歴史と風土が育てた優れた伝統文化や生活様式が各地に息づいていきます。

平成一七年四月、小泉純一郎内閣総理大臣から、日本人や来日した外国人が、このような日本の歴史や文化を理解するため、各地域の文化や歴史を知るための旅のプランを公募してはどうかとの提案がありました。

これを踏まえ、文化庁では、日本人自身や日本を訪れる外国人が、日本の歴史や文化の全体像を理解したり、日本文化の特色をより深く理解することができるよう、「旅」を通じて日本の歴史と文化を訪ねる「わたしの旅」プランを広く募集いたしました。

「旅」は、一人一人がそれぞれの考えや思いを持って行うものであり、そのような考えや思いなどが旅の内容を一層魅力あるものになります。今回の募集では、多彩で特色ある旅プランを集めたいとの思いから、応募者もっている旅に対する考えや思いなども教えていただくことにし、特に「わたしの旅」と銘打

つて実施いたしました。

平成一七年六月末から八月にかけて募集したところ、七八六プランの応募をいただきました。河合英雄文化庁長官を委員長とする選考委員会において選考した結果、その中から、提案者の思いが詰まった魅力的な一〇五プランを一〇〇選として選定しました。さらにその中から、「大賞」を二プラン、「特別賞」を九プラン選定しました。

「旅」は、本来誰でも楽しめる気軽なものです。

文化庁では、今回選定された一〇五プランを広く活用していただくよう、今後とも積極的に紹介してまいります。

今回の一〇〇選により、日本人自身も失われつつある日本各地の歴史や文化を再発見することで、文化芸術活動の創造や保存継承に向けた気運が高まりました。日本を訪れる外国人の方々には日本の歴史や文化を知っていただく、国際文化交流がさらに促進されることを期待しています。

「わたしの旅～日本の歴史と文化をたずねて～2005」大賞および特別賞一覧

旅のテーマ 応募者名	訪問先 都道府県	時代区分	旅の概要
“Japan”を訪ねる旅 菅野淳一	栃木県 東京都 石川県 福井県 京都府 沖縄県	鎌倉、室町、 戦国・安土桃山、 江戸、明治	日本の代表的な伝統工芸の一つである「漆器」(japan)の産地を巡る旅。 ○沖縄県(色鮮やかな琉球漆器) ○京都府(かび・さびの京漆器) ○福井県(歴史ある越前漆器) ○石川県(日常生活で使用される山中漆器、高級輪島漆器) ○栃木県(木彫りの日光漆器) ○東京都(東京国立博物館 国宝級・書文級の漆器)

訪問先

2006年5月20日(土)

- キリコ会館①
- 石川県輪島漆芸美術館②
- 白米の千枚田③
- 和倉温泉④

2006年5月21日(日)

- 石川近代文学館⑤
- 金沢城公園・兼六園⑥
- 九谷光仙窯⑦
- 長町武家屋敷跡⑧
- 高岡市山町筋  
重要伝統的建造物群保存地区⑨
- 高岡市伏木北前船資料館⑩



輪島市白米の千枚田を視察する小泉総理

# 北陸視察

内閣総理大臣  
小泉純一郎



輪島市の石川県輪島漆芸美術館で作品を鑑賞する小泉総理

小泉純一郎です。  
先週末、石川県の能登半島と金沢、そして富山県の高岡市を訪ねました。

三年前の一月、もつとたくさんの方が外国から日本を訪れるようになって欲しい、日本をもつと多くの外国人が訪れたいような国にしていきたい、そういう思いで、「二〇一〇年までに日本を訪れる外国人を倍増させる」という目標を打ち出しました。

以来、「住んでよし、訪れてよしの国づくり」ということで、全国各地の観光地で頑張っている方々を「観光カリスマ」としてお祝いし、「一地域一観光」を進めてもらっています。

日本には、歴史や伝統、文化、自然など、魅力的なところがたくさんあります。こういうところをわかりやすく紹介すれば、日本人にも外国人にも楽しんでもらえるのではないかと。フランスのシラク大統領もそう言っていました。

この思いを昨年、河合隼雄文化庁長官に話し、早速、全国の旅の好きな人などから、これはいいですよというおすすめの旅を公募し、いろいろと提案してもらったところ、八〇〇件近いアイデアが寄せられた。その中からよいものを選んで「わたしの旅一〇〇選」と題して文化庁が紹介している。いつか是非、私自身も訪ねてみ

勉強になりました。

そして、以前から見てみたかった白米町の千枚田、日本の棚田百選にも選ばれているところ。日本海に面した急斜面に、地形に沿って階段状に見事に整備された一〇〇枚以上の田んぼ。小さなものはたみ半畳分ぐらいしかありません。その一枚一枚に水が引かれ、青々とした苗が植えられている。田んぼにはオタマジャクシが泳ぎ、タニシもいる。久しぶりに見た懐かしい景色に、なんだか嬉しくなりました。

景観の美しさもさることながら、急な斜面でもあきらめず、苦勞して田んぼを切り開いた先人たちの努力に頭が下がりました。現在は四軒の農家が耕しているようですが、大変な作業だと思えます。こういう美しいものを私たちは守っていかなければならないと思えました。

その晩は、全国から温泉客を集めている和倉温泉で一泊。最近はいわゆる観光客も多い。温泉から眺められる、輪島塗の素晴らしい器に盛られた海の幸を堪能することができました。

たいものだと思っていました。  
今回は、その中でも大賞に選ばれたところを中心に、訪問することができました。

旅のはじめは輪島市。能登空港ができたおかげで、東京から直行便を利用して一時間半ほどで行くことができました。市内で、世界に誇る輪島塗とキリコというお祭りにかつぐ巨大な灯籠を視察。陶器のことを英語で「チャイナ」ということは知っていましたが、漆や漆器を「ジャパン」ということは知りませんでした。日本の漆芸、日本の文化、たいしたものですね。



高岡市の山町筋重要伝統的建造物群保存地区の皆さんと記念撮影

翌日は、金沢に移動し、旧制四高の校舎だった赤煉瓦の建物にある近代文学館で、学生時代ここで柔道に明け暮れたという井上靖の作品に思いをばせ、兼六園、武家屋敷跡、九谷焼の窯元をまわりました。

高岡市では、土蔵造りの町家、そして江戸時代に北海道と北陸、関西などの間を結び昆布や反物、米などを運んだ北前船の廻船問屋の屋敷など、歴史的な建物や街並みを視察しました。

今回は、いずれも駆け足で見えてまわっただけでしたが、見所は盛りだくさん。日本には、観光資源がいっぱい眠っていると実感しました。

日本中、それぞれの地域にそれぞれいいところがあります。もつとPRすべきところがたくさんあります。日本の歴史や伝統、文化、自然を大切にしながら、日本人にも外国人にも楽しめる、そして地域振興の役に立つ街づくりを考えたいと思います。

「街づくりで大切なのは、女性にやさしく、高齢者に安全で、そして外国人にわかりやすいこと」とおっしゃるのは、木村尚三郎先生。私も、美しく、やさしく、安全で、わかりやすい街づくりを進めたいと思います。

(小泉内閣メールマガジン第235号「北陸視察」より)



河合隼雄 ●文化庁長官

「日本人はあんが自分の国のことを知らない」「日本の歴史や文化はなかなか面白いのに、それをまったく知らず、海外旅行に熱中したりする」。こんなことを、小泉総理と話し合っているうちに、日本人が日本の歴史と文化をたずねる旅をもっとすればよいのに、ということになり、これが「わたしの旅」日本の歴史と文化をたずねて「二〇〇五」の公募をすることにまで発展した。

観光ということがどうしても表面的になるのが残念で、私は「文化観光のすすめ」とか「観光の深化」などという雑文を書いたりして、単なる観光をこえた旅を推称してきたのだが、総理も同じことを考えておら

れたのを知り大変うれしく思った。

これは、外国の人たちが日本を訪れたときも同様で、「観光」と言つて、名所旧跡を―それも大あわてで―見せて、後は温泉というのでは、「日本」を理解する、日本人の心に触れる、ということとはおよそかけ離れ過ぎていると思う。名所でもなんでもない町並みを歩くだけで感激したり、日常生活をとにもすると、われわれが何も気づいていない些細なことに、「日本文化を感じる」と言われたりして驚くこともある。

そんな点でこれが文字どおり「わたしの旅」として、それぞれの人の人間味が感じられるものであるところに深い意義があると思つている。